

授業概要

この科目では、測量の基本技術の習得を通じて、応用能力や実行力、計画的かつ継続的に学習を進めていく能力を身に付けることを目的としています。

6～7名程度の班に分かれて、前期には、陽東キャンパス内の建物周辺の測量を行い、地図を作成します。

夏休みには、3泊4日の合宿形式（最近では農学部附属農場にてお世話になっています）で、道路設計のための路線測量を実施します。

対象：工学部建設学科建設工学コース2年次（実習、必修、通年、3単位）



Welcome to 授業

人間の生活を守るための学問

測量学実習【工学部建設学科】

教員から

工学部では、実験や実習を中心に、班単位で活動しながら履修する科目がたくさんあります。この科目は、建設工学コースの学生にとって、同じコースの学生同士で班になって履修する最初の必修科目です。共同作業を通じて、測量の技術だけでなく、班のメンバー同士で思いやり、助け合う技術を体得することも重要な目標です。

測量では、角度や距離、高さを計測することが基本となります。数十メートル離れた杭までの距離や高さをミリメートル単位で計測したり、角度を10秒（1度 = 60分 = 3600秒）の単位まで計測します。最近ではレー

ザーを用いて簡単に角度や距離を計測し、計算まで行ってくれる便利で高価な機器があるのですが、授業ではあえて古いタイプの道具を用い、共同作業

による計測技術を実践を通

じて学習しています。

夏休みの合宿は天候との闘いです。天気が良ければ、炎天下で熱中症に気を付けながらの作業ですし、雨が降ってしまうと屋外での作業が困難になります。建設工学は自然に手を加えて生きている我々人間の生活を守るための学問ですから、このような自然の厳しさと対峙し、自らの作業をマネジメントしていく経験は大切だと思います。

担当：阪田 和哉（工学研究科講師）、青木 達也（工学部技術部）、吉直 卓也（工学部技術部）、TAの大学院生5名

学生から

大学院に進学し、4月から測量学実習のTAを担当することになりました。学部の2年生のころは、初めて扱う測量機器や慣れない作業に戸惑い、教員やTAの指示にただついていくことだけで精一杯でした。しかし、今回は自分がTAとして教える立場となり、授業前には事前準備として作業内容や手順を理解しておかなければなりません。教えることの難しさとともに、改めて測量を理解しその大切さを知る良い機会となったと思います。

大学院 工学研究科 地球環境デザイン学専攻1年
阪路 英史

私は測量学実習を通して、測量に関して学ぶだけでなく、班のメンバーとの交流も深めることができました。専門的な機器を使うので、その操作方法を覚えたりすることは大変でしたが、非常に貴重な体験になったと思います。夏休みには3泊4日の実習合宿があり、班で協力して毎日楽しく実習に取り組むことができ、良い思い出となりました。

工学部 建設学科 建設工学コース2年 亀田 俊

